**特定非営利活動法人LoRo SHIP**

**第8回通常総会　プログラム**

日時：2013年6月15日（土）　14:00～16：00

場所：早稲田大学　14号館801教室

**【通常総会プログラム】 14:00～16:00**

1. 開会

副代表理事 / 学生代表 挨拶

1. 議事

 議長の選出

第1号議案 2012年度事業報告 鈴木 麻希

第2号議案 2012年度決算報告・監査報告 田中 光

第3号議案 2013年度事業計画 　　　　 吉田 祥太

 第4号議案 2013年度会計収支予算 田中 光

 第5号議案 役員改選の件　　　　　　　　　　　　　　　　　　議長

 第6号議案 新運営体制選定の件　　　　　　　　　　　　　　　議長

第7号議案　　　事業の種類の統一にかかる定款変更の件　　　　　　吉田　祥太

　　全役員挨拶 全役員

1. 閉会

|  |
| --- |
| **懇親会　17:00～19:00**場所：新宿駅　西口より徒歩10分　『嵯峨野』　会費：3000円 　皆様と親睦と深め、交流をはかりたいと思っております。事前に参加のご連絡をされていない方でも、ご参加いただけます。その場合、受付のスタッフまでお声掛けください。 |

**第１号議案　2012年度事業報告**

1.国際協力活動

東ティモール民主共和国（以下：東ティモール）/ロスパロスの人々における雇用創出および文化保存プロジェクト

　昨年度満期を迎えた「東ティモール/ロスパロスの人々のための生計向上プロジェクト」に次いで、新しく「雇用機会の減少」と「伝統文化の衰退」という２つの問題の解決を目指すタイスプロジェクトの始動準備を開始した。

≪国外活動≫

【2012年夏渡航】

2012年8月から9月にかけての夏渡航で本格的なプロジェクト始動のため調査・交渉を行った。首都ディリにおいては、東ティモール国内外にてタイス生産・販売を行っているNGOであるALOLA Foundationの職員らとの協議や天然染色体験、工場見学を通じ、タイスの可能性やその衰退背景などの調査を主に行った。加えてタイスのデザイン考案の協力を要請するため、国内の芸術家集団であるArte Morisも訪問しその可能性について協議を行った。

当法人の主たる活動地であるロスパロス市内では、東ティモール現地の青少年人材育成のプログラムを提供するYouth Development Center(以下：YDC) の所長であり、当法人のスタッフであるイルデフォンソ氏と「タイス生産プログラム」について協議を行い、YDCにて現在行われている４つのプログラムに加えて、「タイス生産プログラム」を新設することとなった。その他、タイスおよびタイス製品の視察として、ディリ市内の大型デパートであるティモールプラザ、ディリ・ロスパロス市内のタイスマーケット、ロスパロス市内の生産者の方々の家庭に訪問し、潜在的な生産者の要望調査等を行った。

【2013年春渡航】

2013年2月から3月にかけて春渡航調査を行った。主たる調査活動内容としては、計４３人のタイス生産者に対しての聞き込み調査である。学生・役員の間でアンケート項目を協議・決定したのち、東ティモール現地にて学生自らがタイス生産者を１件１件回り、聞き込みを行うことで、タイス生産者たちのタイスへの考えや伝統文化継承に関する意識を伺い知ることが出来たと同時に、既存のタイス関連の文献では調べ切れていない情報を数多く入手することができた。帰国後は、こうした地道な訪問を通じて得た生の情報を永続的に当法人内で共有することを目的として、タイス関連報告書を作成した。

在東ティモール日本國大使館では本プロジェクトの企画書や助成申請に際して、今後の改善につながる評価および助言をいただいた。

その他、夏渡航同様にArte Morisの視察や、東ティモール初渡航のメンバーが多かったということもあり、改めて同国内の周辺調査も実施した。

≪国内活動≫

【製品加工団体】

 　プロジェクト開始当初、福島のシングルマザーを中心に構成されており、シングルマザー支援を対象としているNPO法人である「しんぐるまざあず・ふぉーらむ・福島」との連携を検討していた。

連携内容としては、当法人から一定量のタイスの購入と並行し、後述のデザインを受け渡し、それをもとに「しんぐるまざあず・ふぉーらむ・福島」で加工・生産を行い、協働して販売するという計画であった。

しかし、相手方の助成金申請が震災の関係もあり遅れ、その結果タイス購入のための資金調達が困難になったこと、またそれに準じて買い取り予定であったタイスの量と価格の点で合意できなかったこと等の理由から、連携を解消し、製品加工団体の決定は今後に引き延ばす形となった。

【デザイン】

　当初は、国際的なプロダクト・デザイナーの中川聰氏が顧問をなさっている東京大学のデザインサークル、アイダットに依頼しつつ、デザイン専門学校の横浜デザイン学院に実際にバッグやエプロン等のデザイン画を作成して頂いていた。

　しかし、上記の団体に提出して頂いたデザインを、当法人の学生も交え、製品化の可能性や将来性なども協議した結果、残念ながら製品化には至らなかった。

昨年度の準備段階では、夏季調査渡航時から東ティモール国内における協力団体との事業の可能性・内容についての交渉を始め、日本国内でも「製品デザイン」、「製品加工」という2分野で他のNGO団体らに交渉・協力を要請しつつも、本プロジェクトを運営するための資金援助としていくつかの事業助成申請を実施した。

2.認知啓蒙活動

【独立10周年記念イベント】

　5月、東ティモール独立10周年記念イベントに、東ティモールと協働していくNPO団体の１つとして参加し、主に会場内の案内、設営、物品販売を行いつつ認知啓蒙活動に取り組んだ。

【東ティモール独立10周年記念シンポジウム】

　昨年12月、東京都港区の国際文化会館において早稲田大学アジア太平洋研究センター主催のもと、東ティモール独立10周年記念シンポジウムが「『国民国家』形成の課題と平和な社会への構想」というテーマのもとに開催され、メンバーの数名が企画・運営スタッフとして参加しつつ、その他ほとんどのメンバーが出席し、再度東ティモールの歴史や国家の在り方について考えることができた。

【大学間連携イベント】

 　12月末に、2日間連続のイベントであるお茶の水女子大学等の大学と共同で、公開講演会兼パネルディスカッション「東ティモールにおけるコミュニティからの紛争予防、平和構築」と、大学間連携イベント「大学生による平和構築の可能性」の2つのイベントに参加した。これは、2011年度に実施した東ティモール国際調査を契機に関係を構築した東ティモール国立大学の教員、学生を招聘し、東ティモールや平和構築支援への関心が高い5つの女子大や他大学の学生との交流を行いながら、大学や学生が貢献できる平和構築活動について考えることを目的としたものである。2日目のグループディスカッション発表において当法人はソーシャルビジネス・フェアトレードについて発表・紹介し、他大学による平和構築、食、開発教育についての発表から普段関わりの少ない他種の活動それぞれの情報を共有することができ、今後の協力関係の構築の基盤づくりが出来た。

【開発教育】

2013年2月上旬、横浜市の高等学校において、現代社会の授業の一環として、参加型ワークショップ（ロールプレイングゲーム）を行った。ワークショップを通じて、援助が現地に与える影響について高校生に体験的に理解してもらい、より良い援助の在り方について考えてもらう機会を提供することができた。さらに、援助の一例として当法人の活動をテーマに挙げ、上述の当法人が東ティモールにて行っている生計向上プロジェクト・雇用創出・文化保存プロジェクトについて説明し、高校生自身にもできる取り組みがあることを理解してもらった。

3.ビーズアクセサリー販売

ビーズアクセサリーについては、昨年度もこれまでに引き続き販売イベント（7月アースガーデン夏、10月グローバルフェスタ、法政大学学園祭、東洋英和女学院大学学園祭）に積極的に取り組み、総額140140円を売り上げた。

また、群馬大学のOGの方々からご連絡をいただき、群馬大学の大学祭での委託販売もさせていただいた。

4.ボランティア

【弘済学園に図書の寄付】

　2010年度から開始した、社会福祉施設である財団法人弘済学園との古本事業を引き続き行った。早稲田大学社会科学部教員図書室の担当の方と交渉し、同図書館にある図書を譲り受け、弘済学園へ寄付を行った。今回は約35箱分の図書の寄付に協力し、搬入作業を行った。

**第3号議案　2013年度事業計画**

1.国際協力事業

①東ティモール / ロスパロスの人々における雇用創出および文化保存プロジェクト

　昨年度(2012年度)の夏季調査渡航から準備を開始した新規プロジェクト「東ティモール/ロスパロスの人々のための雇用創出・文化保存プロジェクト」は、以下に記載する通り、今年度から本格的に始動する。

まず東ティモール国内事業では、ティモール島の伝統文化である織物のタイスを、東ティモール島の当法人のスタッフであるイルデフォンソ氏が代表を務めるYDCスタッフ等と共に、貧困層かつ若年層の女性を対象として、技術的な指導を実施し、本プロジェクト用にタイスを生産するための体制・モデルを確立する。

次に日本国内においては、上述のように東ティモール国内で生産されたタイスを当法人が日本に輸入したのちに、後述のブックカバーをはじめとする製品の開発・販売を行い、その売上を東ティモール現地の人々に適正に還元する。

【製品加工団体】

前述した通り、「しんぐるまざあず・ふぉーらむ・福島」との連携を解消したため、現在製品加工団体は未定である。ただし、当法人の学生メンバーの知人、家族に引退した手工業技術者がいるため、現時点ではそちらに依頼して商品の製作を行っている。同時並行で、随時NGOや退職された手工業技術者へ、事業の連携協力を目的とした渉外活動を引き続き実施する。

【デザイン】

　前述したアイダット、横浜デザイン学院との関係は継続しているが、現在の実質的な製品のデザイン案依頼先としては、当法人学生メンバーが所属している法政大学デザイン工学部の、学生によるデザインサークルIVIに、後述のブックカバーをはじめとする雑貨や小物のデザインを依頼している。

【製品】

昨月、以上の活動の試作品としてタイスを用いたブックカバーの製作を行った。具体的には、「日本の技術力で発展途上国の問題解決を図る」というコンセプトで、現在東ティモールを対象として開催されている「See-Dコンテスト」の優勝者である瀬戸義章氏からの依頼を受け、「See-Dコンテスト」の資金提供者に対する謝礼として、当法人にタイスを用いた製品の製作を依頼され、本プロジェクトの試作品として単価800円のタイスを用いたブックカバーを64個販売した。

また製品のデザイン開発を依頼しているIVIの顧問である峰元氏からの提案で、6月15日（土）から１週間ほどタイス商品（ブックカバー含む）をJICA地球ひろばに展示する予定である。

さらには、7月上旬よりメンバーの１名が東ティモール国立大学に留学しつつ、駐在員という形で東ティモールの生産ライン管理や日本国内のメンバーとの連絡にあたる。これにより生産者に寄り添う形で事業を進めながら、日本国内では、製品開発・販売を通して得た消費者の声や要望を駐在員と検討・協議しながら進めていくことができ、より生産者と消費者の両者に根付く製品の開発が可能になると考えている。

また、駐在員を派遣することに伴い、本プロジェクトが生産者の生活や収入等の面にどのような影響があるのか等を調査し、活動方針の協議や報告を積極的に行っていく。加えて各種助成金の申請も日本国内のメンバーが主体的に進めつつ、駐在員との連携・情報交換によって得た情報なども考慮しつつ積極的に行う。

なお、昨年度事業計画にあった「日本・東ティモール協会」をはじめとする東ティモール国内で活動されている各団体や、当法人の理事・監事をはじめとする社会人の皆様との連携・協力関係をより一層深めていき、本プロジェクトや下記≪新規プロジェクト≫について是非ご助言を賜りたい。

②東ティモールスタディーツアープロジェクト

旅行会社のH.I.Sへの渉外・情報交換から、「東ティモールを対象地としたスタディーツアー」の構想・準備を進めている。今夏の渡航に間に合わせるのは、日程や内容などが未確定であることから、見積もりやリスクヘッジ等の協議ができないため不可能であり、H.I.Sとの協働は来年の春季渡航以降とする。

このプロジェクトの一環として、社会人の旅行団体である「たびっくす」とのスタディーツアープロジェクトのコンテンツの共同開発も考慮に入れており、6月29日に東ティモールおよび当法人の活動紹介およびツアーについての協議を行う予定である。

③.≪新規プロジェクト≫

現在上述の「東ティモール/ロスパロスの人々における雇用創出および文化保存プロジェクト」に加え、新規のプロジェクト発足に向けた取り組みを行っている。

　現状としては、構想段階ではあるが6つの分野においてそれぞれの事業の可能性などについて協議・検討を進めているところである。

しかし、これらを全て実現することは困難なため、メンバー内にて協議・熟考した上で2分野ないしは1分野まで絞り込み、今後日本国内・東ティモール国内にてそれらの潜在的なニーズやシーズの調査を行った上で実行に移していきたい。

直近では8月中旬より今年度の夏季調査渡航を行う予定であり、その際に現地生産者の声や実現可能性などを重点に置き、アンケート調査などの実地調査をしつつ、平行して日本国内でも同種の活動に着手しているNGO団体の調査・渉外・検討をしていきたいと考えている。

2.物品販売

引き続き物品販売の売上向上を目指して積極的に取り組んでいく。今年度は上述の「東ティモール/ロスパロスの人々における雇用創出および文化保存プロジェクト」の本格化にあたり、物品販売の促進・強化がより一層求められるため、従来の定期的な国際協力系の祭典やイベントへの参加・出店はもちろん、出店の際の販売方法やレイアウトなどの検討、委託販売、ソーシャルネットワーキングサービス(SNS)、再編されたHP上の広報やインターネット販売などを積極的に行い、東ティモールの現状・生産者の声をより消費者に近い形で情報配信しつつ、支援者・顧客獲得を目指していく方針である。

3.開発教育

2013年2月、横浜市の高等学校において、現代社会の授業で参加型ワークショップ（ロールプレイングゲーム）を行った。このような教育開発や啓蒙活動を今年度も引き続き実施していきたいと考えている。観光に訪れた東ティモールのある村で援助について話し合うというコンセプトを基に、当法人学生メンバーの東ティモールへの渡航経験を活かして教材づくりを行い、高校生がゲームを通して東ティモールという国について学び、また援助のあり方について彼らが主体的に考える機会を持つことを目的とする。

日本国内において東ティモールを事業中心地においている団体は少数であり、加えて学生が主体となって活動している団体は当法人を除いて他にないため、基本的に発展途上国にかかわりのない高校生に対して、大学生という距離の近い立場からの情報交換、国際協力、東ティモールという1つの国家について考える機会を提供しつつ、大学生もこのような教育事業を通じ、認知啓蒙活動だけでは得られない、新たな発見や成長を期待できると考えられる。また、これらは当法人の活動を対外的に示す広報活動ともなるため、このような活動を今後も継続して行っていきたい。

**第５号議案　「役員改選の件」**

当法人の役員の任期は、定款第15条により1年となっており、したがって現在の理事および監事は本年6月30日が任期期限となるため、新理事並びに新監事の選任を行う必要がある。

今年度より、社会人理事・監事の皆様からは、特に本業を通じた経験に基づいた積極的・定期的・具体的なご指導・ご鞭撻を賜りたいとの学生側の要望があり、また丸山隼人氏、木村近義氏をはじめとする現役員の方々からもこうした学生側の要望を尊重したい旨が伝えられた結果、皆様には今後より一層の積極的かつ定期的・具体的なご指導・ご鞭撻を賜りたいと存じます。

現役員の皆様では、丸山隼人氏、木村近義氏、森裕之氏、丹羽千尋氏、白川麗子氏、監事の関根義之氏からご就任の意思を頂戴いたしました。皆様には引き続き理事ならび監事にご就任いただきたくご提案いたします。

加えて今年度新規理事として下山志保氏、蒲龍太郎氏、藤森幹氏を推薦いたします。

**新役員のご紹介**

代表理事 丸山　隼人 　　　　再任

副代表理事 木村　近義 　　　　再任

理事 森　裕之　 　　　　再任

理事 丹羽　千尋 　　　　再任

理事　　　　　　　　　　白川　麗子　　　　　再任

理事 下山　志保 　　　　新任

　 　 理事 蒲　龍太郎　 　　新任

　　　 理事 藤森　幹 　　　　新任

監事 関根　義之 　　　　再任

なお、任期は2013年7月1日より2014年6月30日までとなります。

**第6号議案　新運営体制選定の件**

昨年度理事・監事として尽力してくださいました寺田嘉文氏、林綾音氏、小川隆弘氏、渡辺日向子氏、河村恭至氏の計5名の方々の退任等に伴い、新たな運営体制として「社会人グループ」の設立を決定させていただきました。

また今後の組織活動における「活動顧問」として、早稲田大学社会科学部教授山田満氏、東洋英和女学院大学ならびに法政大学国際政治学部教授吉川健治氏を推薦したいと存じます。

**第７号議案　事業の種類の統一にかかる定款変更の件**

昨年度、当法人は主たる事務所の住所を変更に伴い定款を変更し、現住所は東京都港区となっているが、前年度の定款変更の際に、埼玉市から会計書類における事業の種類の混在を指摘され、このため東京都に住所を移すことと並行して事業の種類についての統一を進められたため、今年度当法人の定款1章第2条（事業の種類）を次のように変更したい。

【現在】（事業の種類）

第5条 この法人は、第3条の目的を達成するため、次の事業を行う。

(1) 特定非営利活動に係る事業

① 開発途上国の住民への技術移転、人材育成及び、国際協力に関する啓蒙活動

(2) その他の事業

① 物品販売

↓

【変更案】（事業の種類）

第5条 この法人は、第3条の目的を達成するため、次の事業を行う。

(1) 特定非営利活動に係る事業

① 開発途上国の住民への技術移転、人材育成及び、国際協力に関する啓蒙活動

② 物品販売